

2026.03.09

令和7年度 第3回 森高校 学校運営協議会 議事録

○開 会

- ・オブザーバー： 渡島教育局より社会教育指導班の吉田主事が出席。地域と学校の連携・社会教育の視点から議論を視察。

1 会長挨拶

- ・ 1年間の生徒の生活アンケートを基に、次年度の学校運営目標や地域との連携において忌憚のない意見を求める旨が述べられた。

2 報告事項

(1) 生徒の現状と進路状況

- ・ 在籍数： 全年次合わせて75名。1年次に野球を希望する転入生が2名。
- ・ 進路実績： 3年生31名中、4年ぶりの国公立大学合格者を輩出。
- ・ 進学： 大学2名、専門学校5名（うち1名未決定）。
- ・ 就職： 公務員2名（自衛官）、民間就職20名（地元採用中心、1名未決定）。
- ・ 保健・生活： 欠席者数は前年比の大幅減少が継続（1月末時点で前年比20名減）。
- ・ 保健室利用者数は昨年度1,134名から254名へ、880名（約78%）の激減。
- ・ 分析： 教室以外の「逃げ場・遊び場」としての利用を適正化し、本来の「健康相談・静養」の場として再定義されたことが要因。生徒の生活が格段に落ち着いている。

(2) 学校の魅力化と成果

- ・ 4つの充実化：
 1. 学習・進路： T-base導入により意識の高い学習集団を形成。検定や講習の参加率が上昇。
 2. 広報： 町の広報紙、ホームページの随時更新を徹底。
 3. 課外活動： 野球部への地域支援により環境整備が進展。バドミントン、eスポーツ、ボランティア活動への相乗効果。
 4. 地域連携： 町内の幼・小・中、役場、商工会等との連携による学びの拡充。

3 協議・審議事項（分析と次年度の方針）

(1) 各種アンケートの傾向

- ・ 保護者： おおむね肯定的だが、家庭での学習習慣や資格取得（今年度、教員定数の都合で商業系検定が実施できなかった影響）に課題を感じている。
- ・ 「近い・通いやすい」という評価の一方で、保護者世代には「かつての荒れていた時期」のネガティブなイメージが根強く残っており、これが志望選択の障壁（ワンクッション）になっている。
- ・ 現在の森高校の「落ち着いた様子」や「新しい取り組み」を親世代にどう伝えるかが鍵。

(2) 次年度の取組に向けて

○令和 8 年度 学校経営方針 (案)

- キーワード：「探究活動の中軸化」「ウェルビーイング(生徒・職員)」「学力の定着」。
- 7 つのコンピテンシー：卒業までに身につけさせたい力として「自立心、探究力、協調性、共感力、公共心、自己表現、発信力」を策定。
- 評価制度：従来の知識・技能だけでなく、これら「非認知能力」を評価し、大学・企業の求める人材育成に繋げる。

※主な意見交換と提案

● 「特色ある学校づくり」予算の活用

- 提案：町の予算を、単に学校が使うだけでなく「生徒に使い道を考えさせる」など、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育に紐づけてはどうか。
→学校側：職員や地域委員だけでなく、高校生の自由な発想を吸い上げて、活きた予算執行を目指したい。

● 認知度の向上と広報戦略

- ターゲット：Instagram は年齢制限の関係で生徒より「親・地域住民」がターゲットになる。
→具体策：生徒が作成した活動紹介(冊子や DX の成果物)をデジタル化(QR コード)し、親世代がよく利用する地元のスーパー等に掲示・配布する。
- 「進学校へのシフト」だけでなく、地元の一次産業(林業、漁業等)と接続した学びを PR し、地域への愛着を高める。

● 地域おこし協力隊(吉田氏)の今後

- 懸念：協力隊の任期終了後、野球部や地域の支援体制が途切れることへの不安。
- 意見：彼が森町に定住し、自走できるような仕組み(稼げる仕組み)を町全体で考えていく必要がある。

「中学校側から見た生徒の現状と森高校への期待について」として以下の文章も追加してください。

● 生徒の現状と森高校への期待について

1. 生徒・保護者の意識変容

- 生徒のポジティブな変化：生徒たちの中からネガティブな言葉が減り、学校生活や進路に対して前向きな姿勢が見られるようになった。
→今年 1 年で、生徒たちの心情は大きく改善・変化したと評価できる。
- 保護者世代の課題：生徒自身に比べ、親世代にはまだ否定的な先入観が残っているケースが見受けられる。
- 「ワンクッション置く場」としての選択肢か、それとも「意欲的な選択」としての進学か、親の理解をどう深めるかが今後の焦点となる。

2. 森高校への進学動機と学習意欲

- 再出発への意欲：入試面談を通じ「もう一度最初からしっかり勉強し直したい」という強い意志を持つ生徒が多いことが判明した。
- 消極的ではなく積極的な選択：「仕方なく来る」のではなく、「森高校で頑張りたい」という目的意識を持った生徒が増えている。
- 教育活動への評価：特に「探究活動」など、近年の特色ある取組が生徒たちにポジティブに届いており、志望理由の一つとなっている。

3. 今後の展望と高校側への要望

- 伸びしろへの期待：現中学3年生は、ようやく学習への足がかりを掴み始めた段階で卒業を迎える。
 - 高校入学後にさらに成長できる「伸びしろ」の大きい生徒たちであるため、入学後の継続的なサポートと手厚い指導を期待したい。
- 教員から見た生徒の変化
- 教務：探究学習で見た生徒の「表情の違い」が印象的。自分の課題意識を持って地域の人と対話する機会が、学校の文化になりつつある。
 - 進路：1年生が非常に落ち着いており、他校に引けを取らない授業が展開されている。3年生が「今の1年生が羨ましい」と言うほど、学びの質が向上している。

(3) その他

○今後のスケジュール

- 3月19日(5～7時間目)：1・2年生による学びの成果発表会。外部の方の来校・視察を歓迎。
- 4月～：学校公式 Instagram 運用開始。